

# 在スロバキア日本国大使館

## 政治・経済月報（2013年10月）

### 目次

#### 内政

- ◆政府、公務員の一斉賃上げを提案 2
- ◆2014年予算案の閣議決定 2
- ◆政府、法人税率引き下げと事業登録料の導入を提案 2
- ◆賃上げ合意に関する法改正の国会承認 3

#### 外交

- ◆フィツォ首相のV4首相サミット参加 3
- ◆ライチャーク外相のギリシャ訪問 4
- ◆デンマーク国会議長のスロバキア訪問 4
- ◆仏大統領のスロバキア訪問 5
- ◆ライチャーク外相のV4+西バルカン外相会合参加 7

#### 社会

- ◆首相府前広場における看護師たちの賃上げ要求行動 7
- ◆ブラチスラバ中央駅の改築工事始まる 7
- ◆警察によるジャーナリストの盗聴 8

#### 経済

- ◆来年の最低賃金は4.3%上昇 8
- ◆スロバキアは欧州の組み立て工場から脱却する 9
- ◆国家財政、緊縮路線から成長路線へ 9
- ◆世銀のビジネス環境ランキング、スロバキアは過去10年で最低の49位 10
- ◆主要経済指標：2013年9月 10

## 内政

### ◆政府、公務員の一斉賃上げを提案（8日付「スメ」）

政府は7日、国家公務員、警官、消防士について、来年1月から一律に月13ユーロの賃上げを行う案を、労働組合側に対して提示した。これにより、1人あたりの人件費は1.7%上昇し、国家予算からの支出は7700万ユーロ増加することになる。人件費支出4.2%の増加を求める被雇用者組合の代表者は、政府提案はなお不十分であるとしている。労働省のオンドルシュ副大臣は、仮にこれ以上の賃上げを行うのであれば、社会基金など他の分野への公的支出を犠牲にせざるを得ないと述べた。

### ◆2014年予算案の閣議決定

政府は10日、2014年予算の閣議決定を行った。予算案の概要は以下のとおり。

#### 1：予算案のポイント

- (1) 企業法人税率は、現行の23%から22%に引き下げられる。
- (2) 教員の給与は5%（月平均42ユーロ）、公務員の給与は2%（月平均16ユーロ）引き上げられる。
- (3) 財政赤字の抑制目標は、GDP比2.83%以下とする。
- (4) 全企業より、年間事業登録料を徴収する。（額は未定。ただし、法人税額が事業登録料を上回る場合は、事業登録料分を控除。）
- (5) エネルギー、通信等の公益企業に対する臨時課税は継続。

#### 2：主な財源確保の見通し

- (1) 経済状況の好転（経済成長率2.2%、税収増加、租税回避の減少、インフレ率低下、消費増加）—1億2700万ユーロ
- (2) 行政リストラ（役所の統合、支出削減）—1億5900万ユーロ
- (3) 国営企業からの配当増加—9100万ユーロ
- (4) 事業登録料（上記1—(4)）—1億1500万ユーロ
- (5) 公益企業の臨時課税（上記1—(5)）—7870万ユーロ

### ◆政府、法人税率引き下げと事業登録料の導入を提案（11日付各紙）

政府が提示した来年の予算案には、法人税率の引き下げが含まれる一方で、新たに事業登録料の導入が盛り込まれた。政府案によれば、現行23%の法人税率は、来年

から22%に引き下げられる。一方で、全ての企業が対象となる事業登録料が、新たに導入される。政府はこれにより、年間の収益が赤字となったことで法人税を支払う義務の無くなった企業からも、一定額の税収を得ることができる。ただし、事業登録料額を上回る額の法人税支払い義務が生じた企業については、法人税の課税額から既に支払った事業登録料分が差し引かれる。事業登録料の額はなお未定である。

フィツォ首相は今夏、新たな増税は行わないと明言していたにもかかわらず、事業登録料という事実上の新税が盛り込まれた。フィツォ首相は、新税導入の目的について、予算案に盛り込まれた法人税率引き下げをカバーするためであると弁明している。しかし、実際には事業登録料による増収額は法人税率引き下げによる減収額の2倍以上にもなる。企業は法人税率引き下げを歓迎しているが、事業登録料の導入については不満を感じている。ただし事業登録料は、実際にはオーストリアの例と同様に、法人税を支払わない赤字企業を対象としており、租税回避対策の性格が強い。したがって、一定の収益を上げ、事業登録料を上回る額の法人税を支払う中小企業は、そこから事業登録料分が控除されるため、法人税率引き下げのメリットのみが残ることになる。また、法人税率引き下げには、スロバキアへの外国投資を促進する効果もある。

#### ◆賃上げ合意に関する法改正の国会承認（30日付「スメ」）

29日、国会は労使間の賃上げ合意に関する法改正を承認した。改正法は、大統領の署名を経て、来年1月より施行される。改正のポイントは、ある産業分野において、労働組合と経営者団体との間での賃上げ額に関する合意がなされた場合、その産業分野に属し、かつ20名以上の従業員を有する全ての企業は、これに従わざるをえないところにある。現行法では、賃上げに関する労使の合意を受け入れるか否かの最終的判断は、各企業が個別に行うことが可能である。改正法の適用対象となる企業数は、約12000社となる見込みである。経営者側は、今回の法改正は、機械工業を中心に大多数の中規模企業に困難をもたらすと考えている。

## 外交

#### ◆フィツォ首相のV4首相サミット参加

14日、フィツォ首相はブダペストで行われたV4首相サミットに参加した。今回のサミットでは、原子力安全に関する欧州委員会指令案に対する対応、2016年の発足が計画されているV4共通戦略部隊、来年以降のV4基金の増資、地域間協力、文

化・学術・境域及び観光分野での協力等がテーマとなった。フィツォ首相は、6年ごとの原発安全検査の義務付けと新規原発認可プロセスの公開を規定した欧州委員会指令案に関し、「スロバキアは、我々が欧州において感じ始めている原子力発電事業の政治化を拒否する。我々は、電力源として原子力を用いない国々を尊重するが、しかし同時に、これらの国々が原子力を用いる国々を尊重することを求める」と述べた。

#### ◆ライチャーク外相のギリシャ訪問

23日～24日、ライチャーク・スロバキア副首相兼外相はギリシャを公式訪問し、パプーリアス大統領、ヴェニゼロス副首相兼外相等と会談した。

23日の外相会談にて、ライチャーク外相及びヴェニゼロス外相は、両国間の貿易額が数年前の水準に戻るよう、経済協力を発展させる用意のある旨述べた。ライチャーク外相は、イノベーションや第三国市場への進出を含めた新たな形態での経済協力の展望、最近発足したギリシャ・スロバキア商工会議所の貢献について述べた。両外相はその他、西バルカン情勢や東方パートナーシップに関するビリニウス・サミットに関して意見を交換した。

24日、ライチャーク外相とパプーリアス大統領の会談にて、両氏は、本年のキリルとメトディオスのスロバキア来訪1150周年及びスロバキア・ギリシャ外交関係樹立20周年が重要な意義を持つ点を確認し、ライチャーク外相は、9月に実現したパプーリアス大統領のスロバキア訪問が、今後の両国間関係の更なる深化に寄与した旨述べた。

#### ◆デンマーク国会議長のスロバキア訪問

28日、リッケトフト・デンマーク国会議長はスロバキアを訪問し、ガシュパロヴィチ大統領、フィツォ首相、ライチャーク副首相兼外相等と会談を行った。

ガシュパロヴィチ大統領はリッケトフト議長との会談において、スロバキア・デンマーク間の経済関係の良好さを強調し、両国間の貿易額は昨年7億6300ユーロに達し、デンマークはスロバキアにとって重要な貿易相手国のひとつであり、またデンマークの投資により、スロバキアにて1万2千の雇用が創出された旨述べた。ガシュパロヴィチ大統領はその他、文化面における協力、国連及びEUにおける協力関係も評価した。ガシュパロヴィチ大統領は、11月のビリニウス・サミットにつき、同サミットは東方パートナーシップ諸国の将来を決定する重要なサミットとなる旨述べた。リッケトフト議長は、ウクライナが欧州の共同体の一員となることはデンマークにと

り重要な関心事項であり、東方パートナーシップにとってもキーとなる旨述べた。

ライチャーク副首相兼外相とリッケトフト議長の会談の主要テーマは、EU議長国就任に向けた準備段階における意見の交換及び第68回国連総会の評価となった。ライチャーク副首相兼外相は、リッケトフト議長の第70回国連総会議長への立候補を支持する旨述べた。ライチャーク副首相兼外相は、デンマークの投資家は、スロバキア国内における投資先の多様化のみならず、イノベーションの観点からも歓迎されており、同国投資家にとって最も好ましい投資条件を形成することに関心を有している旨述べた。

### ◆仏大統領のスロバキア訪問

29日、オランダ仏大統領はスロバキアを訪問、ガシュパロヴィチ大統領及びフィツォ首相と会談を行った。仏大統領のスロバキア訪問は、1993年の独立以来初めてとなる。今回の訪問は、両国の国交樹立20周年のみならず、仏が重要な役割を果たしたところの、チェコスロバキア第一共和国の建国95周年という記念すべき機会に実現した。仏は、スロバキアにとって最も重要な戦略パートナーのひとつである。仏企業によるスロバキアへの投資は増加し続けており、2000年以降で50億ユーロ以上に達している。

#### 1：ガシュパロヴィチ大統領との会談

ガシュパロヴィチ大統領とオランダ大統領は、原子力発電を継続していく点で一致した。原子力発電は、スロバキアの電力供給において中心的な役割を果たしており、今後も発電量の増大が計画されている。原子力安全は、エネルギーの安定供給の観点から、スロバキアにとって特に重要である。ガシュパロヴィチ大統領はこれに関連し、高速炉「Allegro」のプロトタイプ建設計画において、両国の協力発展の可能性がある旨述べた。

大統領会談のテーマとして、EU拡大、特に東方パートナーシップ問題が取り上げられた。ガシュパロヴィチ大統領は、11月に開催されるビリニュス・サミットの成果は、東方パートナーシップ諸国のみならず、EUの東方政策にとっても重要なものとなる旨述べ、特にウクライナによるEU連合協定署名の意義を強調した。オランダ大統領もこれに同意し、ビリニュス・サミットにおけるウクライナの連合協定署名及びモルドバ・グルジアとの同協定に関する交渉開始を歓迎する立場を表明した。

## 2：フィツォ首相との会談

オランダ大統領は、首相府でフィツォ首相との円卓会談を行った。その中でオランダ大統領は、EUはその市民にとって、ただ努力と財政規律強化の同義語にとどまるのではなく、成長の同義語ともなるべきである、と述べた。フィツォ首相はこれに付け加えて、今はまさに、不可避であった緊縮措置の後で良いニュースを公衆にもたらず時であり、財政規律強化は今後も継続する必要があるにしても、経済成長と投資による下支え無しには経済再生は不可能である旨述べた。

オランダ大統領とフィツォ首相は、若年層の就業支援の必要性につき合意した。フィツォ首相はこれに関連し、11月にパリで開催される若年層雇用問題に関するシンポジウムへの出席を表明した。同首相はまた、若年層雇用の拡大を今後3年間の中心的政策課題に据え、そのための財源確保の具体的手段についてオランダ大統領と協議した旨明らかにした。

## 3：新聞報道（30日付「プラウダ」）

スロバキアを公式訪問したオランダ大統領は、両国の「戦略的パートナーシップ行動計画」の調印後、多くの仏企業がスロバキアへの投資を希望している旨述べた。投資対象として想定されるのは、高速道路建設、自動車製造、そして原子力発電事業である。オランダ大統領は、スロバキアにおける新たな原子炉建設、核廃棄物処理、廃炉作業への協力に関心を抱いている旨明言した。

(1) 明らかに最大の投資対象となり得るのは、現在請負先を巡る協議が進行中の、ボフニツェ原発における新原子炉建設計画である。同計画を巡っては、建設事業主体となる合弁企業の株式49%の売却先として、露のエネルギー企業ロスアトムとの交渉が行われているが、同社が提示する電気料金の定額保証という条件に、マラティンスキー経済相が難色を示している。仮に仏が交渉相手に加わる場合、同様の条件を提示するかどうかは不明である。オランダ大統領はまた、核廃棄物処理事業への協力についても、関心があると述べた。ボフニツェ及びモホウツェの国内2カ所の原発から生じる核廃棄物は、仏アレバ社がスロバキアに最新型の第4世代実験炉「Allegro」を建設することで、再利用が可能となる。フィツォ首相はかねてより、原子力利用に豊富な経験を有するスロバキアにおいて、この計画が実施可能であると見ている。

(2) 両国の戦略パートナーシップを巡る協議においては、自動車産業も話題となった。スロバキア側は、トゥルナバのPSA プジョー・シトロエン工場における新たな投資に関心を抱いている。仏では現在高失業率が問題となっており、仏政府は自国メー

カーに国内生産拠点の維持を奨励し、違反した場合には罰金を科す法案も成立している。ただし、2016年に予定されているトゥルナバ工場への新たな投資は、PSA と米ゼネラル・モーターズとの提携による新モデル製造への転換が目的であり、仏政府の国内労働者保護政策に抵触するものではないとされる。

#### ◆ライチャーク外相のV4+西バルカン外相会合参加

30～31日、ライチャーク外相はブダペストにおいて行われたV4+西バルカン外相会合に参加した。会合には、V4及び西バルカン諸国の外相に加え、欧州連合理事会議長国であるリトアニア、オーストリア、トルコの外相及びフューレEUコミッショナー（拡大・近隣国政策担当）が参加した。

ライチャーク外相は、31日にブダペスト近郊で行われた全体会合の席上、「欧州は西バルカン諸国の参加なくしては完全でも一体でもない」と述べ、スロバキアが西バルカン諸国のEU加盟を明確に支持していく旨表明した。同時に、EU加盟希望国が、加盟に際し要求される基準を満たす義務についても言及した。

会合終了後、参加各国外相による共同声明が発表された。その中では、信頼、一貫性、コンディショナリティに基づくEU拡大プロセスの継続的支援が確認されたほか、セルビアのEU加盟交渉の遅くとも2014年1月の開始への支援、モンテネグロのEU加盟に向けた取り組みへの評価、V4諸国によるEU加盟経験の西バルカン諸国との共有の確認等が盛り込まれた。

## 社会

#### ◆首相府前広場における看護師たちの賃上げ要求行動（4、5日付各紙）

フィツォ政権に対して賃上げを求める公立病院の看護師たちが、2日から4日にかけて、首相府前の広場にテントを張り、政府に対する賃上げ要求行動を行った。フィツォ首相は3日、特に賃金の低い県立及び市立病院の看護師の平均賃金を月640ユーロに上げる提案を行った。ただし、その財源をどこに求めるのかは明確にされていない。

#### ◆ブラチスラバ中央駅の改築工事始まる（22日付「経済新聞」）

老朽化したブラチスラバ中央駅の改築計画は2002年に立ち上がったが、主要な請負企業であるトランスプロジェクト社とブラチスラバ市当局との対立から長期間頓

控していた。このほど、トランスプロジェクト社が新たな出資元としてポルトガル及び英国の2企業を獲得したことで、ようやく市との間に和解が成立し、工事が開始される運びとなった。トランスプロジェクト社が市に提出した改築計画によれば、工事費用は約2億ユーロで、歴史的建造物の改修、駐車スペース・通路・商業施設・トラム地下駅の新設が行われる。トラム地下駅は今年10月中、商業施設と駐車場は遅くとも来年11月に着工され、2017年半ばまでに全ての工事が終了する予定である。

#### ◆警察によるジャーナリストの盗聴（31日付「スメ」）

2010年9月に発生したE. ヴァルコ弁護士（元憲法裁判所長官）殺害事件に関連して、ジャーナリストのT. ニコルソン氏が、警察の合法的盗聴を受けていたことが明らかとなった。盗聴は、最高検察庁及びブラチスラバ地方裁判所の許可を得て、2010年10月から翌年1月まで行われた。警察によれば、ニコルソン氏を盗聴した理由は、同氏が事件当時ヴァルコ氏の英語教師を務めていたからであるという。事件発生の直前、ニコルソン氏はヴァルコ氏に電話をかけ、次回の英語のレッスン時間について尋ねていた。しかしニコルソン氏は、ヴァルコ氏殺害の件は盗聴の理由としては弱く、口実に過ぎないと見ている。英国生まれで現在はスロバキアで活動しているニコルソン氏は、政財界の癒着疑惑としてスロバキア社会にセンセーションを巻き起こし、昨年3月の国会総選挙における連立与党敗北・政権交代の一因となった「ゴリラ疑惑」に関する著書を公にしている。ヴァルコ氏殺害事件は、ニコルソン氏が「ゴリラ疑惑」の取材を行っていた時期に発生した。したがって同氏によれば、当時警察内には、「ゴリラ疑惑」に関連して同氏の盗聴に関心を抱く多くの人物がいたという。

## 経済

#### ◆来年の最低賃金は4.3%上昇（3日付「経済新聞」）

スロバキアにおける現在の最低賃金は337.7ユーロで、約21万人の被雇用者がこの額で働いている。労働省は先日、来年は最低賃金額について、14.3ユーロプラスの352ユーロとする提案を行い、政府の承認を得た。上昇率は4.3%となるが、これは予測されるインフレ率の倍以上になる。労働省の広報担当者は、これにより人々が仕事に向かうモチベーションが高まるとしている。国家の承認を得てこの案が実現すれば、被雇用者にとってはメリットとなる一方、特に外食産業、ホテル、工業、食品製造業など、低賃金の従業員を比較的多く雇用する企業の経営にとっては、大きな



負担となる。

#### ◆スロバキアは欧州の組み立て工場から脱却する（3日付「プラウダ」）

スロバキアは、外資系の自動車や電子機器メーカーの巨大工場が建設されて以来、欧州の組み立て工場と見なされてきた。しかしこれらの外資系企業は、次第にスロバキアに研究・開発拠点も置くようになってきており、また情報技術分野の企業の進出も盛んである。その結果、高等教育修了者が高収入の仕事に就く可能性が増している。

ただし、こうした外国投資の獲得は安くはない。政府は2日、コシツェにて500名の新規雇用を計画している T-Systems 及び IBM に対し、700万ユーロの投資補助を供与した。IBM は、月3000ユーロ以上の給与を約束している。研究・開発事業については、ガランタのサムスン電子及びプーホウの Matador が設置を約束している。高収入の仕事が増加しているという点については、平均賃金以上を稼ぐスロバキア人の割合が、2009年には31%であったのに対し、現在は35%に達しているという事実が証明している。

しかし、スロバキアが欧州の組み立て工場というレッテルを取り除くまでには、なお時間がかかる。フィツォ首相は先日、「我々は、今のところ自動車生産の代わりを持たない」と述べた。フィツォ首相によれば、スロバキアは工業の GDP に占める割合が EU 内で最も高い国であるという。

#### ◆国家財政、緊縮路線から成長路線へ（17日付「経済新聞」）

政府はこれまで、緊縮路線の緩和について言及することはあっても、その停止を明言することは無かった。しかし、今回 EU に提出することになる来年の予算案では、景気の変動及び政府の一時収入を度外視した来年の構造的財政赤字は GDP 比3.1%となり、今年の2.9%から再び上昇に転じる見込みである。カジミール財務相によれば、この転換を可能にしたのは EU である。ここ数年のスロバキアの経済成長は、予想されたよりも緩慢である。そこで政府は、経済成長計画の支援を目的として、さらに4億6000万ユーロの投入を EU に対して求めている。

しかし、一部の専門家は、こうした方策は破綻を招く可能性があるとは指摘する。スロバキア科学アカデミーのヴラディミール・バラージュ研究員によれば、より急速な経済成長の実現には西欧の景気拡大が鍵となるのであり、政府による成長支援策としてせいぜい実現可能な高速道路建設は大海の一滴に過ぎないという。また、緊縮路線の停止は、政府の借金の急速な増加をもたらす、将来的により厳しい緊縮措置を導く

危険性があると指摘する声もある。来年の財政赤字の総額を GDP 比 2.8%以下に抑制するという政府目標の達成が可能かどうかは、今後の景気及び税収の状況次第である。

### ◆世銀のビジネス環境ランキング、スロバキアは過去10年で最低の49位

(30日付「経済新聞」)

世界銀行が発表した最新のビジネス環境ランキング「Doing Business 2014」によれば、スロバキアの順位は過去10年で最低の49位であった(前回は46位)。同ランキングの評価基準になるのは、事業開始プロセス、建設認可期間の長さ、不動産登記、融資獲得の可能性、課税率、輸出の可能性、法執行の確実性等である。スロバキア貯蓄銀行のアナリストであるマルティン・バラージュ氏によれば、スロバキアの評価は、事業設立手続きの困難さ、輸出、投資者保護、健康保険、税制等において低かったという。専門家によれば、世銀のランキングは投資を計画する企業にとっての最終的な決定要因ではないにせよ、各国の投資環境についての基本的な情報を提供する役割を果たしている。近隣諸国では、チェコが75位(前回65位)、ハンガリーが54位(前回54位)、ポーランドのみがランクを上げて45位(前回55位)であった。

### ◆主要経済指標：2013年9月

※出典：Štatistický úrad SR 及び Eurostat。為替レートについては Interbank Rate を使用 (<http://www.oanda.com/>)

#### GDP 成長率 (対前年同期比)

四半期	
1	0.6
2	0.3
3	0.2

#### 消費者物価指数 (対前年同月比)

月	総合	食料品価格	エネルギー価格	運輸・交通価格
1	2.4	5.9	0.2	0.8
2	2.2	5.6	0.1	0
3	1.9	3.5	1.0	-0.7

4	1.7	4.1	0.4	-1.7
5	1.7	4.4	0.4	-1.6
6	1.6	4.4	0.4	-1
7	1.5	4.3	0.3	-0.2
8	1.3	3.8	0.3	-1.1
9	1.0	3.1	0.3	-1.7

#### 失業率

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国	EU27 カ国
1	14.8	11.9	10.8
2	14.7	12.0	10.9
3	14.7	12.1	10.9
4	14.4	12.2	11.0
5	14.3	12.2	11.0
6	14.3	12.1	10.9
7	14.0	12.1	10.9
8	13.7	12.0	10.9
9	13.8	12.2	11.0

#### 為替レート

月	1ユーロ／円
1	118.1
2	124.5
3	122.9
4	130.9
5	130.9
6	128.5
7	130.4
8	130.3
9	132.3

外国貿易 (単位:100万ユーロ)

月	輸出	輸入
1	4,857.6	4,482.8
2	5,037.8	4,613.3
3	5,309.5	4,842.6
4	5,642.2	5,076.5
5	5,706.0	5,069.5
6	5,282.2	4,832.7
7	5,010.7	4,839.7
8	4,843.4	4,582.4
<b>9</b>	<b>5,727.5</b>	<b>5,181.9</b>

鉱工業生産指数 (対前年同月比)

月	鉱工業総合	自動車工業	電子機器工業
1	106.4	115.5	79.1
2	101.0	108.0	96.2
3	100.9	102.3	103.3
4	102.8	105.1	101.9
5	102.8	102.6	92.9
6	102.9	101.2	99.0
7	102.2	95.4	110.2
8	104.4	108.0	98.9
<b>9</b>	<b>107.5</b>	<b>103.5</b>	<b>96.1</b>

景況感

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国
1	84.9	89.5
2	86.7	91.1
3	91.0	90.1
4	91.3	88.6
5	88.7	89.5

6	84.4	91.3
7	87.8	92.5
8	88.4	95.3
<b>9</b>	<b>90.0</b>	<b>96.9</b>